



1973年の大森山動物園開園当時からあったサル舎（以下、旧サル舎）は、展示面が細かい金網で、寒い時期はサル達が外に出たがらず、来園者からも見にくいという展示の問題のほかに、施設の狭さや設備の老朽化により、動物の安全管理上、飼育作業もしにくい不便な施設になっていました。

2017年に新しいサル舎（以下、新サル舎）を建設することが決定し、2018年には先進地である旭山動物園や札幌市円山動物園を視察して、「サルがサルらしく暮らすことができる施設」をメインテーマとし、以下の基本コンセプトをまとめました。

1. サルが躍動的に動き回る姿や家族や群れの営みを様々な角度から観察できる施設
2. チンパンジー舎と屋上で施設を連結することで霊長類展示施設として一体感のある施設
3. 動物福祉に配慮することで、サルが身体能力を発揮し、のびのびと暮らせる施設
4. 来園者が天候や気温に影響を受けずいつでも快適に過ごすことができる施設

2019年10月下旬に旧サル舎のサル達を動物病院などに引っ越しさせ、11月上旬から工事が始まり、2020年10月7日に無事完成しました。完成後、新サル舎にサル達を受け入れる準備を進め、新しく仲間入りをしたフクロテナガザルのオス「パパイヤ」、メスの「ワタル」が入居第1号となりました。その後、エリマキキツネザル、ワオキツネザル、ブラッザグエノンの順番で入居し、1月時点でアビシニアコロブスは入居待ちです。

新サル舎は、1月の「雪の動物園」から一部を開放し、3月の通常開園からオープンします。



屋外展示場

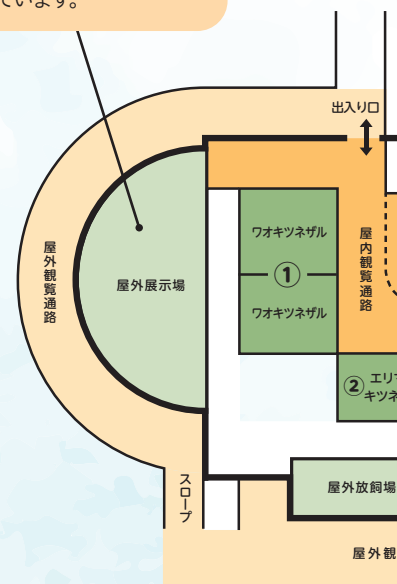
旧サル舎と比べ、新サル舎は屋外展示場から高さが2倍以上の6～8mになりました。また、旧サル舎ではすべてのサルを横並びに展示するアパート形式でしたが、新サル舎では2種類のサルが1つの屋外展示場を日替わりで使用することで、広々と屋外展示場を使えるようになります。

なお、ワオキツネザルの屋外展示場は、将来、来園者が中に入ってサルと同じ空間で観察できる施設となっています。



チンパンジー舎との連絡橋

新サル舎のサルとチンパンジーを一体的に見ていただくために、新サル舎とチンパンジー舎を屋上で結ぶ橋を架けました。橋の上から屋外展示場で動き回るフクロテナガザルやアビシニアコロブスをご覧いただけます。



休憩スペース

新サル舎えた屋内休憩の日でも、ゆをご覧いまた、秋田プロジェクトルをモチーフ

サル舎の仲間たち

① フオキツネザル



旧サル舎では3つの群れに分かれていましたが、新サル舎では2部屋で2つの群れになりました。1部屋に10頭以上の群れは見応えがあります。

② エリマキツネザル



白と黒のふわふわした毛がとてもかわいらしく見えますが、見た目によらない大きな声はガラス越しでも聞こえます。

③ ブラッサグエノン



水戸黄門様のような白いヒゲ、頭には頭巾のようなオレンジの毛が生えています。引っ越しの時は少し緊張していましたが、すぐに新居に慣れたようです。

④ アビシニアコロブス



動物病院での仮住まい中にレイアが赤ちゃんを生みました。やんちゃ盛りの子供は「がっこ」(秋田弁で漬物)と名付けられました。

⑥ その他の展示動物



⑤ フクロテナガザル



大森山動物園では初めての展示となります。オスのパパイヤは愛知の日本モンキーセンターから、メスのワタルは長崎の九十九島動植物園からやって来ました。木の上ではダイナミックな動きですが、座っている姿や地上を歩いている姿はとてもかわいいです。

小動物舎の隣にあった「爬虫類の部屋」を新サル舎に移動しました。インドホシガメとコモンマーモセット、ムツアシガメとグリーンイグアナが同居する様子も見ることができます。鳥類ではサンショクキムネオオハシを展示します。



コース

にはトイレや冷暖房を備えた休憩スペースがあり、雨や雪の日は室内展示場のサマタだけ。日公立美術大学とのアートで制作した壁面アートやサマタとしたイスも設置します。



新サル舎の愛称は、雪の動物園期間中に募集し、3月20日の通常開園日に発表します。今後来園者に親しまれ、サル達が快適に暮らせる施設となるよう動物園スタッフみんなで頑張っていきます！